

人口減少時代のまちづくりは 開発型から自然の再生・回復へ



二月十六日、日本共産党市会議員団主催で「まちづくり学習会」をおこないました。講師の中山徹奈良女子大学准教授は、最初に、出生率が一・二五となっている日本の現状と、百年後には人口が半減すると予想されていることを示し、少子高齢化が進む人口減少時代を迎えて、従来の人口急増・高度成長時代の開発優先の政策は、根本的な見直しが求められている、と述べました。

そのうえで、寝屋川市のような従来型の大開発優先の政治は、全国的にも珍しいと指摘しました。

中山氏は、自らが訪れたヨーロッパ各国の都市や韓国のソウルなどでこの間おこなわれてきた、自然を回復したまちづくりや高齢者に優しい歩行者と公共交通（低床のLRT）優先のまちづくりを映像で紹介しました。

イギリスのコミュニ

ティーフオレスト計画は、露天掘りの炭坑跡を川と湖と森に変えるものです。規模は小学校区単位と言います。大きなものは、十校区分、千ヘクタールにもなります。

ソウルでは、中心を走る高速道路が、国際都市としての今後を考えた時、ふさわしくないと、元の川に造りかえられました。有名な清溪川（チョンゲチョン）復元です。

住民主人公の寝屋川まちづくりへ

質問に答えて、寝屋川市も、かつて農業用水路が縦横に走っていた美しいまちだった。住民が毎年川さらいに取り組めば、お金もそんなにからない、と話されました。

ヨーロッパでは、良質な公共住宅が多いこと。スウェーデンでは、施設介護より在宅介護

ドイツのシュリンキング・ポリシーは、旧東ドイツ地域の人口激減から考えられた減築・改修と自然再生のまちづくり計画です。

その他、イギリスやフランスの、都市景観を考えたい住民合意のまちづくりの紹介もありました。

が、財政的にも本人の健康にも良いと、二四時間体制の手厚い看護、介護に加えて、住宅改修のバリアフリー化に全額公費負担の制度があることも紹介されました。また、オランダの、住民合意のまちづくりとして、コンペで住民からのアイデアも出してもらい、住民投票で決定し、行政が具体化を進める例も紹介されました。市民

からの意見書に対しては、一つ一つきちんと答え、公開されるとのことでした。

ある参加者は、「こういう話を待っていた。寝屋川市が進めている、少子高齢化を理由にした財政削減、住民負担増。その一方で、百二十数億円もの市税を投入する開発行政。いかに将来を考えていないか、よくわかった。」と述べました。

定例会のお知らせ

北河内4市リサイクル施設組合では下記の日程で定例会を開催します

日時：2月26日(火)午後2時～
(受付は午後1時半～)
定員12名(先着順)

場所：北河内4市リサイクルプラザ3階研修室

問合せ：北河内4市リサイクル施設組合事務局
TEL・823-2038

議員日誌



中谷 光夫

三月予算議会が始まります。今回は、代表質問に立ちます。やりがいもあるかもしれませんが、調査、準備で苦労も伴います。議員団と住民の協力を得て力を尽くします。